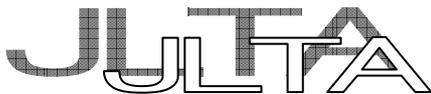


日本ことば療法学会



Japanese Language Therapy Association

発行 一般社団法人発達支援協会 年2回発行(6月・12月)

〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98 JHTA内

TEL&FAX: 052(505)5255

<http://www.seepa.jp/u/nihon-kotoba-ryohou-gakai>Eメール: takada@aroma-nagoya.com 発行人: 堀田喜久男

第3期 ことば療法士

7月より募集開始!

同封のチラシをご覧ください。(講習風景)



『ことばの療法士2つの資格』

・日本ことば療法学会 認定『ことば療法士』

【ことば療法士とは】 発達支援という広い視野に立ち、障害児・者のことばの療法を実践・研究、発表などを通してことば療法を体得し、障害児・者に対してことばの療法を実践指導が出来る者とする。

・一般社団法人 発達支援協会 認定『ことば音楽療法士』

【ことば音楽療法士】とは発語音楽療法の第一人者『堀田喜久男』が25年間の実践で積みかさねてきた障害児へのことば療法です。500名以上の障害児にことばをもたらした音楽を使った療法です。日本語のアクセントは抑揚アクセントで話される。ことばの中にふしがあり、それを三三七拍子のリズムに乗せて展開していく。発語から～知育へと子どもさんの発達段階にあわせて楽しく学べます。

【日本ことば療法学会は】

当学会は障害児・者のことばの療法を調査・研究、発表、実践を通して療法の普及並びに増進を図り、障害児・者のことばの獲得、言葉によるコミュニケーション能力を高めることを目的とする。(一般社団法人発達支援協会が運営している学会です)

♥INDEX♥

第3回 日本ことば療法学会(名古屋)報告	2~5
堀田メソッドってすごい	6
工藤知子/ 横浜支部報告	高橋亮太郎
「わかった!」「言えた!」	桂川 一 7
初めてでた三語文「ママといっしょにいこうね!」	土田靖子 8
親子の会の中での団体セッションと個別指導	高部紀美子 9
コラム	認定教室の紹介 穴戸 理恵 10

第3回 日本ことば療法学会 IN 名古屋

日 付：平成27年5月30・31日（土曜日・日曜日）

30日：学会認定「ことば療法士」を目指す方のセミナー

31日：第3回 日本ことば療法学会 開催

ことば療法士 講習会

講師の先生方から

提出されたレポートへのメッセージを頂きました。



第1講座

発達障害の基礎知識 栖村 はるみ氏

レポートを読ませていただくと、担当しているお子さんの様子をイメージしながらしっかり講義を聞いてくださった方が多かったことがわかり、嬉しく思いました。発達障害にはさまざまなタイプがあり、そのタイプとその子の発達段階をふまえた対応が重要です。発達障害を持つ子への支援の難しさは、対応そのものというより、「今、どの対応を選択すべきか」の見極めにあると思います。皆さんのレポートでは、今後も勉強しながら一人ひとりにあった支援を探っていきたいという感想が沢山あり、とても心強く感じました。みなさんのポジティブな姿勢と根気は、きっと発達障害を持つ子の助けになると思います。今後のご活躍を期待しています。



第2講座

「障がい児と暮らす家族の心のケア—」講義を終えての感想

金谷 ますみ氏

自分の子どもが「障がいを持って生まれてきたら」、自分自身が「障がい」を抱えることになったとしたら……。援助職を志す人には、「障がい」を自分のこととして感じるころが大切だと想っています。そこから理解が始まり、療育がスタートするのでしょうか。我々が胸襟を開き、自己開示をし、すべてを受け入れるスタンスで子どもたちや保護者にかかわることができれば、そこには柔らかな春風のような心の交流が生まれ、安心感が育まれます。親のこころの心理的变化を知り、心の耳で聴く「傾聴」的姿勢でご家族の不安に寄り添って差し上げたいといつも想っています。



第3講座

ことば療法の基礎 後半 徳田 和恵氏

「スピーチや言語発達に関する専門用語に溢れる内容を、短い時間にとりあえずまとめたような講義構成でしたのに、皆さんが本当にしっかりと、ご自分のことばとして専門用

語を駆使して書き留めていらっしやることにびっくりしました。まさに皆さんの熱心さの賜物と思います。同時に、皆さんが日々、意欲的で問題解決的な視点を持って、ことばに関わる活動の中のいろいろな状況や事象を捉えて検討されていらっしやるからこそ、講義内容を真正面から受け止めて消化されたのだと思います。皆さんの熱いエネルギーを頂いて、私もさらに進んでいきたいと思います。有難うございました。」



第4講座

発語音楽療法（日本語の音楽療法）後半 堀田喜久男氏

教材の構成や展開についてよく理解したレポートが多くあった。

- ・発達段階に沿って多くの教材を作り長期にわたり実践した結果の提示であった。見習って積み重ねたい。
- ・この療法に会えて人生も変わった。子どもの力を引き出すように頑張りたい。
- ・ラソミの日本音階や抑揚補助技法の有効的なことを実感した。
- ・特別支援学校の教員時、手探りの教材研究をしていた。堀田メソッドに出会っていたらと強く思う。求めるものがここにあった。
- ・障害児に実践されている方からは、この方法の有効性を確認できた。などの感想が多くあった。熱心に受講いただき感謝している。



総合司会：浅井信人	題 目
基調講演	日本福祉大学 子ども発達学部 教授 近藤 直子 講演題目『ことばにこころをのせて』～
講 演	どれみだんけ 療育担当者 深谷 靖子 題目：『施設でのことば療育と親との関わり方』
休 憩	
シンポジウム	進行役：高橋亮太郎
研究発表	放課後等ディサービス【とこっ子】 療育担当 佐藤笑子 ことばの音楽療法～団体セッションの実践での学び～
研究発表	長鎌 明美

	脳梗塞による失語症から自然に出た感動の（♪みかん）
共同研究発表	ことば音楽療法士 嬉 利恵 / 岩橋 直美 ことばの音楽療法～個人セッションの実践

司会進行 高橋亮太郎



シンポジウムテーマ【積みかさねで・ことばを育む】

シンポジスト

中央戸 理恵 徳田和恵 堀田喜久男 後藤浩子（メッセージご参加）

○中央戸 理恵先生

今回のシンポジウムのテーマは「積み重ねで・ことばを育む」であった。日頃のセッションで、同じようなことを繰り返し行っているようでも、細かく着目すると確かな進歩がみられる。習慣からその場面で何をするか、どのようなことばを使うのか、出来上がる行動のリズムや規則性の中からことばをつかみ、そして次のステップへと進むことが可能である。文法、助詞の使い方も繰り返し行うことで、いつの間にか身に付いていることもある。セッション内容の子どもの反応などを記録し、次への方向性を見つけ、ほんの少しの新しい要素を取り入れて育てていくことも大切なことと思われる。ノンバーバルな視点からは、ことばはなくとも、挨拶や感謝の気持ち、受容の声の表情を聞きとり合ったり、ちょっとした体の動き、ゼスチャーなどからも事柄の理解や心のキャッチボールができる。

○徳田 和恵先生

これまでたくさん子どもさんと出会ってきました。最近では、直接子どもさんと、というよりも、職員さんや先生方の相談に対応するなどが多くなっています。その中で感じていることの一つは、運営や指導におけるリスク管理について再認すべきと思うこと、もう一点は、関係者間でしっかりと情報交換がなされている方が、悩んでいらしても、解決への選択肢を多くお持ちのように感じていることです。また、発語がない子どもさんにどのようにSTは対応するのか、というご質問については、まずは子どもさんの障害特徴や言語発達の状況の評価から始まること、発語がないお子さんでは着席行動がスムーズか否かもアプローチの選択に影響すること、動作模倣等を駆使して思わず声が出る状態を引き出そうと工夫すること、出た・出る音声から発語へと臨床を進めることなどをお話ししました。

○後藤 浩子先生（メッセージをそのまま記載します）

スクールカウンセラーとして行っている小学校で、小学生に発達検査をして感じることです。一つは、「ワーキングメモリー」をどうやって使いやすく、拡げていけるかということです。もうひとつは、養育者が「ことばかけにひと工夫する・ひと手間かける」ことの重要性についてです。

1. ワーキングメモリーについて

ワーキングメモリーとはいったん、頭の中にちょっと置いておく、というようなこと。
発達検査の中の記号の問題で、この記号にはこのマークというようない対一対応ならできの
に、いくつかマークが並んでいるところに「これと同じマークがありますか？」という問題に
なるとてきめんできなくなる子どもに何人も出会います。「このマーク」をいったんワーキ
ングメモリーに置いておいて、他のマークの集団と同じかどうかを見ていくという頭の中でも
作業がうまくいかないようです。ワーキングメモリーが小さく狭く、少なく、使いづらいよう
です。そんな状態だと、授業中大勢の中で、先生が何か言っても、聞きもらして、勘違いがお
こるだろうし、お友だちとの間でも勘違いのために、トラブルが起こることもあるでしょう。
ワーキングメモリーをどうやって拡げていくか？

そんなときにひとつの方法は、「逆さことばを考える」です。

例えば、「りんご」の反対は「ごんり」、「すいか」の反対は「かいす」…

これらを頭の中でやっていくのです。すると、「りんご」を頭の中にいったんちょこんと置いて、
反対に言うことを考えることができます。そうすると、ワーキングメモリーのところを使
うことになります。そして、ワーキングメモリーが増えたり広がったりすると思います。

「れいぞうこ」の反対は？「いきものがかり」の反対は？

私たち大人でも、脳の使っていない部分を刺激されるのを感じられるのではないのでしょうか。

2. ことばかけにひと工夫・ひと手間かけることについて

発達検査の中で、これくらい知っているだろうと思うことで、こんなことも知らないの？と
びっくりすることがあります。例えば、火曜日の次は水曜日とか、にわとりのこどもは？など。
保護者との話の中で、「他の兄弟は、特に何もしなくても、ことばを覚えていったし、理解も
発語もあった、同じようにしていても、この子はことばが伸びていないということがでてくる。
そこで、大人が自分の行動や気持ちを口にする（セルフトーク）

「今、お母さん、キャベツ買うね。」「こっちのキャベツの方が大きい」（スーパーなどで）

「もう1時50分。あと2時まで10分だ。」とか。とにかく、これくらいわかっているという
ようなことを話すというひと手間がとても重要だと感じています。それによって、子どもた
ちは語彙が増え、知識が増え、ことばが増えてくると思います。

○堀田喜久男 先生

障害児のことばを体得させるのに積み重ねが最も大切です。

ことばの療育を長期にわたり展開するには日本語の特徴を生かすことが大切です。最も大切な
ことは日本語の抑揚です。展開に際してはやさしいものから順に進めることです。

- ・発音に関しては母音・有声音・無声音の順に進めることです。
- ・ことばの順序は1音節（語）、2音節語、3音節語、多音節語です。
- ・数については順序数、量の数です。
- ・品詞の面では名詞、動詞、形容詞などです。
- ・構文に関しては2語文（自動詞構文）3語文（他動詞構文）です。
- ・語彙を増やすには連想しりとり歌やつながりことば歌です。
- ・楽しむにはお話（抑揚補助技法を活用）があります。
- ・書字では粗大運動から微細運動へなどです。

堀田メソッドってすごい

福岡（行橋支部）

支部長 工藤知子

堀田先生と出会い、通信で受講し、4年が経ちます。現在グループセッションを月に3~4回、個別で受けられる親子も増え、日々私も勉強中です。グループレッスンでは、プログラムの流れは変えないで、単元の中身を変えるようにしています。数え歌は毎回行いますが、数えるものは、変えていきます。動物、果物、野菜、乗り物のカードを何種類も準備しています。「数えるものは何かな？」と子供たちは、楽しみにしているようです。二語文の歌は、絵を変えています。絵が変わると二語文の歌も変わります。絵本の読み聞かせでは、図書館から、大型絵本を借りてラソラにのせて歌いながら読んでいます。不思議と集中して良く聞いています。『あっちゃんあがつく』は、1回のセッションで、二行歌うようにし、大きな絵に拡大していますので、注目出来て元気一杯歌っています。50分間のセッションプログラムを作成し、毎回行っています。

個別では、その子に合わせた取り組みで行っていて、小さな机と椅子を準備し座る事を大切にしています。色のマッチングの学習では、小さな折り紙をラミネートして、色カードを作り「あか、あか、合わせます。」と歌いながら進めていき、青、黄、緑等のカードをたくさん準備しています。又は、赤の箱、黄色の箱を作り、赤い玉、黄色の玉を入れる等、ラソラにのせて歌い学習しています。数え歌は、机の上に並べられるカードを作り、ブラックボードに貼っていきます。一人一人にあわせたアプローチが出来るのは、個別セッションのよいところでもあります。

昨年、北九州市で指導者セミナーを行い、多くの申し込みがありました。皆さん堀田先生のメソッドに関心をもって下さり、是非実践していきたいという意見を頂きました。まだまだ堀田メソッドを必要としている方々がたくさんいるのではと思いました。



横浜支部報告：平成27年5月29日（金）場所：戸塚区地域子育て支援拠点 『とっとの芽』



堀田メソッドの普及マップでいうと首都圏は後発エリアで、横浜市ではまだ堀田メソッドを実施しているところはありません。横浜支部では、将来的に地域と一体化した展開を目指して、昨年からの地元関係者への浸透を目的とした説明会を実施しております。去る5月29日はNPO法人の運営する地域子育て支援拠点「とっとの芽」にて15組の親子を対象にした体験講座が開かれました。こどもの発語に関心を持つ親御さんか応募が相次ぎ、最後はキャンセル待ちが出るほどでした。

前半が親子で実際に堀田メソッドを体験して、お子さまが「♪リンゴ、リンゴ、リンゴはあかい」「♪ウンチャー・・・あたま～！」などのプログラムに児童がノッてくる様子に、親御さんも新鮮な驚きを感じたそうです。後半は堀田メソッドの説明。ことばの発達には関心が高く、どの親御さんも熱心に耳を傾けていました。今回は1～3歳の未就園児が主だったため、最後の朗読は世界文化社の「とーんだ とんだ」に効果音をつけておこないました。

後日談ですが、この説明会の模様を離れたところで聞いていた職員さんが、この場で繰り返された「♪ラーララソララ・・・」のフレーズが数日感アタマでずーっとループしてしまい困ったそうです（笑）ミソラのパワーおそるべしですね。

写真：進行－奥住、伴奏－高橋

「わかった!」「言えた!」「伝わった!」を一緒に喜べるセッションに

NPO法人つばさの丘 代表 桂川 一



放課後等デイサービス「つばさクラブ」は開始から10か月目に入りました。シンプルな理論と実践的なアプローチに共感し、「ことば音楽療法」の導入を進めています。「なんだか耳につく歌、言葉」と体験した子の保護者さんたちは言います。現に私が遊びの中で「たーまごたまご、なーんのたまご」と歌うと1語文の子がその場で歌ったり、ギターで「あっちゃんあがつく」（料理の絵が50音で描かれている絵本）を歌うと、感覚遊びにこだわっていた子が、その絵本とギターをわざわざ持ってきて私に「やて（やって）」とアピールするなど、このメソッド自体に魅力があると感じています。

「つばさクラブ」では2015年2月28日に、発達支援協会の主催で「ことば音楽療法、相談体験会」を開いていただき、5人の子どもたちが体験しました。言葉のない重い自閉症の子がタイミングよく「は」「け」「め」など発声して、お母さんが「こんな風にでるんですね!」と言っていたり、構音障害の子の発声の様子から、言葉ははっきりしていないが物の名前や動詞、形容詞も言おうとしているなどのことが分かり、「なるほど、喋れないけど分かっているし、言おうとしているんだ」とスタッフ・お母さんと確認できたりしました。そういった点でもことば音楽療法のセッションは意義のあるものと感じています。

自前でのセッションは5月からです。きっと堀田先生のような落ち着いたものでなく、バタバタしたりあせったりすることがあると思われそうですが、子どもたちが声や言葉で言いたい、表したい、言えた、伝わったという感動を一緒に体験する場として成功させたいと思っています。毎月第4土曜日の9:00～10:15 ことば音楽療法1（自発発声から1語文）、10:45～12:00 ことば音楽療法2（二語文～形容詞、反対語）というクラスで行う予定です。

NPO法人つばさの丘（愛知県春日井市）

初めてでた三語文「ママといっしょにいこうね！」

大阪支部

支部長 土田靖子

音楽や歌が好きな A ちゃんが 初めてセッションにきたのは7歳の時でした。先天性筋ジストロフィー症による知的障害で、言葉が一音節しか出ませんでした。発音練習や337拍子のリズムのマラカス、呼吸法、数え歌、オノマトペのカード、楽器遊びなどのプログラムで、一回60分月三回のセッションを続けました。幼児期に少しあった発語（ママ、パパ、はっぱ）から数年を経ていた A ちゃんでしたが、ほぼ九ヶ月のセッションで発音しやすい二文字言葉の発語が可能になり、家庭での要求言語の発語に繋がりました。

その後も単語の数が急速に増え、A ちゃんはセッションに来るたびに言葉が増えてきました。しゃべるのが楽しくてしきりにしゃべっている感じです。学校でお友達に自分から「さよならまたね」と言ったり、「電気ついたね」の二語文や「ママと一緒にいこうね」の三語文や、「暑いね」「ころんだね」と生活の中で、その場面に合った言葉が自信を持って言えるようになりました。又、想像力があり、二音節語のカードの「すな」を見て「スコップ 学校」と言ったり、オノマトペのカードの太陽から「あさ」と言います。指図カードと数字カード、数図カードのマッチングも 地道に根気よく続けているとできるようになりました。

A ちゃんの行動に合わせて即興的に歌いかけ、行動や実物を意識化させて発語を促し、これを繰り返す事により A ちゃんの理解言語が増えました。更に、発音練習を継続した事で大きな声が出せるようになり、発語が増え自分の気持ちを表現できるようになりました。又、興味のある教材を使って意欲を引き出し、飽きさせないで数え歌や五十玉を繰り返した事によって、手指の細かい運動ができるようになり、今までやりたくても出来なかった家のお手伝いをして、母親に褒められた事は A ちゃんの大きな自信となりました。これらの事が A ちゃんの心の安定につながったと考えられます。



A ちゃんは、二年足らずの間で目覚ましい進歩をしています。個別指導とお母さんとのコミュニケーションの大切さや、堀田メソッドのすごさを感じました。この様な成長過程に携われた事に幸せを感じ、A ちゃん笑顔が絶えない事を願ってやみません。

親子の会の中での団体セッションと個別指導

ことば音楽療法士

高部 紀美子

私は、愛知県刈谷市を拠点に活動をしている「Smile Step」の会で、土曜日を中心に、堀田メソッドを学ばれた、竹森若緒先生の「ことばたまご塾（ことだま…団体セッション）」の講師と個別指導をさせていただいています。市の施設を予約して活動しているため、会場の予約ができてから、対象の方に連絡し、個別指導の時間を決めています。私自身、幼稚園児、小学生の子育て中で、行事などが重なる事があり、毎回の日程調整は皆さんの協力が欠かせません。



個別指導は、体験会を昨年7月に実施し、8月から開始しました。対象児に小学生が多いことから、土曜日に実施していますが、「ことだま」の講師でもあるため、個別の時間があまり取れず一人当たり、月1回のセッションです。しかし、土曜日は何かと予定が入るものです。学校行事があったり、週末に体調を崩したりして、お休みになるケースも出てきます。振り替えをすることもできず、翌月を楽しみに待つこととなります。

個別指導では、借りられるお部屋が変わることがあります。部屋が変わることで、戸惑うお子さんの中にはいますが、音が始まるといっしょにリズムうちをしたり、声を出したりしながら取り組んでいます。一ヶ月、期間が空くことが多いので、毎回、子どもたちの様子の変化には驚かされています。初めてのもののときには、拒否することもあります。一度経験した課題に自信を持って取り組む姿には、とても感動します。それを「すごいね！」と伝えたときの表情。ぱあ〜っと周りが明るくなるような、穏やかな気持ちになり、子どもたちから、元気をもらえる瞬間。この瞬間が、私にとってのご褒美です。思ったようには、いかないことがたくさんありますが、個々との関わりの中で、よりよい方法をじっくり考えさせてくれるいい機会になっています。どんなものがいいのか、子どもたちに教えてもらいながら、教材や指導の工夫をしていきたいと思っています。

「ことだま」では、集団の中での子どもたちの姿が見れます。積極的な子、みんなの様子を見ている子、お友達といっしょにいることが楽しくなってしまう子…等。いろいろな個性があって、刺激しあって、貴重な時間が過ごせます。若緒先生の絵本教材もみんなの気持ちをひきつける魅力的なものです。一方、個別では、対面でゆったりと個々の子どもに向き合うことができます。私は、どちらの時間も大好きです。子どもたちや保護者の皆さん、Smile Stepの会に感謝し、これからも頑張っていきたいと思っています。

コラム7

央戸 理恵

子どもの頃、世界史の授業で先生に、「浦島太郎」や「桃太郎」などの替え唄の歌詞を世界史の重要なポイントを使う方法で作らされた。たくさんの世界史ソングが出来上がったが、覚えやすく、忘れにくかった。英語なども歌なら覚えやすいという友人もいた。

モーツァルトは多くの国を演奏して巡り、その結果、多くの言語に触れ、いろいろな言語の「音」を聴いたことが彼の音楽作品に大きな影響を及ぼしたとよく言われている。

ことばと音楽と記憶はそれぞれ相乗効果がある。小さな子のピアノレッスンなど、リズムがどうしても取れない時、歌詞をつけて歌ってやると一発で弾けることが多い。音節分解のように「音分解」をすると上手く弾けることも多い。古屋晋一さんと言う方が「ピアニストの脳を科学する～超絶技巧のメカニズム～」という本を書いているらしいですが、その本の中で、こんなことが書かれていました。脳幹の電気信号の特徴が、聴こえる音の波の特徴と似ていれば、脳幹は正しく音の情報を処理している。脳幹が言葉のピッチの上がり下がりや正しく認識できないと語尾が上がっているのに下がっているように処理をし、疑問文か肯定文の聞き分けが困難になる。そして、「音楽訓練の効果が言葉を処理する能力に転移し、訓練していない言語を聴きとる能力までもが向上する。」と。

ことばを促すには音楽、うたうことは、やはり絶大な効果があるようです。音楽脳が言語脳の「補足」をすることもあるといます。今、私の教室にきて8カ月経つ男児は、ことばより音程が先にでることがあります。単語の発音はできないが、歌い、それが徐々にことばの輪郭のようなものに変化していく。個人それぞれの伸び方であるが、たくさんの音を聴かせていきたいものである。

一般社団法人 発達支援協会 認定校・教室

- ・埼玉県 【加藤音楽教室】 主宰者 加藤千子 HP <http://syougaiji-ongakukato.jp/>
- ・大阪府 【さゆり音楽学院】 主宰者 土田靖子 HP <http://www.seepa.jp/u/hatugo-osaka/>
- ・愛知県 【SiSiDo Music room】 主宰者 央戸理恵 HP <http://www.seepa.jp/u/piano-hatugo/>
- ・京都府舞鶴：【でんでんむしの会】 松浦光子 『りずむの木』 福岡遠賀郡
- ・三重県 【樋口音楽教室】 主宰者 樋口なおみ
- ・福岡県 【ことばの音楽教室】 主宰者 工藤知子
- ・福岡県 遠賀郡：『りずむの木』 主宰者 石井純子
- ・京都府 舞鶴市：『さがん発語音楽教室』 主宰者 目美香
- ・大阪府枚方市『安宅ことば音楽療法教室』 主宰者 安宅千世子
- ・東京都江戸川区ことば音楽療法『あ・い・う・え・お』 主宰者 嬉 利恵



■認定校

- ・名古屋市【発語音楽研究所】療育責任者：堀田喜久男（発語音楽療法←検索）
- ・東大阪市【どれみ だんけ】療育責任者：深谷靖子（どれみだんけ FACEBOOK）

ことば音楽療法の認定校・教室です。教室か事務局にお問い合わせ下さい。

認定校・認定教室を全国にて募集しております。電話：052(505)5255